

2011年度第5回 鋼構造運営委員会議事録

日時： 2012年3月23日（金） 14：00～17：00
 場所： 建築会館会議室
 出席者： 緑川主査，岡本，金子，向野，河野守，吹田，多田，玉井，中込，成原，西山，
 藤澤，藤田，伏見，山田，寺田
 欠席者： 井戸田，小河，越智，笠井，河野昭彦，桑村，田上，田川，田中，竹内，中島

資料：

05-01 2011年度 第5回鋼構造運営委員会議事予定 (緑川)
 05-02 2011年度 第4回鋼構造運営委員会議事録 (案) (寺田)
 05-03 2011年度第3回 構造本委員会 議案および資料 (緑川)
 05-04 2011年度第4回鋼構造座屈小委員会 議事録 (多田)
 05-05 接合小委員会2011年度第4回議事録(案)および接合部指針改定講習会参加者一覧 (田中)
 05-07 鋼構造耐火設計小委員会 第7回 議事録 (河野守)
 05-09 ミルシートおよび引張試験データの統計調査，第11回素材小委員会議事録案(案) (山田)
 05-10 2011年度 鋼構造塑性設計小委員会 第4回 議事録 (案) (玉井)
 05-12 鋼構造運営委員会および小委員会 2012年度予算原案 (緑川)
 05-13 WG設置申請書 (緑川)
 05-14 2012年度大会構造部門（鋼構造）PD構成案 (藤田)
 05-15 関連書籍に関する質疑回答一覧 (多田)
 05-16 国総研資料「鋼材の破断伸びに及ぼす試験片形状の影響」 (西山)
 (資料-06, 08, 11 は欠番)

議事

1. 前回議事録の確認(資料05-02, 寺田)

・事前配布された議事録案に対する修正指摘事項はなく、議事録は承認された。

2. 構造本委員会の動き(資料05-03, 緑川)

・3月12日に開催された構造本委員会の内容が資料に基づき報告された。鋼構造運営委員会に関連する主な事項は下記の通り。

- ①「鋼構造物の座屈に関する諸問題2013」の構造本委員会査読担当が壁谷沢委員，植松委員に決定した。
- ②[若手奨励]特別研究委員会や竹中育英会建築研究助成などへの構造分野からの応募が少ないので，積極的に提案・応募をお願いしたい（緑川主査）。
- ③311地震調査報告書について

兵庫県南部地震のときは，建築学会を含む複数の学会の合同の調査報告書が出版されたが，東日本大震災調査報告書は建築学会として単独で出版することとなった。ただし，表紙のデザインは各学会で統一する。構造本委員会の幹事の大森委員と三浦委員が建築学会の編集委員会委員に

推薦された。編集委員会は、2年後の出版をめどに活動する。学会としての調査報告書は、建物被害から災害時の人間の行動や法制度・行政組織のあり方など非常に多岐にわたる。その報告書の一部である建築構造の被害については種別ごとに調査報告を執筆する。

- ・経費削減のために2012年の大会から梗概集冊子（紙）が廃止され、DVDに一本化されることが報告された。このことに対し運営委員会では下記の意見が出された。なお、冊子の希望者には有料で頒布される。

- ①DVDのメディアとしての寿命は10年程度なので、耐久性の面で不安である。劣化対策は必要。
- ②DVD化（電子化）で迅速にキーワードにより検索できる一方、冊子のように全体をぱらぱらとみることがやりにくくなる。
- ③若手はDVDに何ら抵抗はないが、年配者にとってはかなり抵抗があるだろう。
- ④時代の流れであろう。
- ⑤削減された経費を別途会員サービスに使っていただきたい。 など

3. 各小委員会報告

資料等に基づき各小委員会の活動が報告・審議された。主な点を記す。

1) 接合小委員会(資料05-05, 寺田)

- ・接合部設計指針の改定講習会が無事に終了した。3会場で合計497名が参加した。

2) 制振小委員会(緑川)

- ・今年度までのWGを統合し、2012年4月から「制振設計指針編集WG」を立ち上げる。指針の執筆作業を主に編集WGにて行い、制振設計小委員会では原稿の査読を中心に実施し出版を目指すこととする。

3) 耐火小委員会(資料05-07, 河野守)

- ・単純架構による崩壊温度の確率解析として、鋼材の高温強度のばらつきと架構の崩壊温度の関係の把握や架構の変形と区画維持の相関など検討している。
- ・火災時に梁がたわむことで軽量鉄骨下地間仕切りのスタッドが簡単に座屈し、区画が保持できない場合もある。リダンダンシーやロバスト性にも着目し、引き続き検討していく。
- ・現在の耐火設計指針は2008年度に出版されている。2014年ころに「・・・の諸問題」的なレポートを出し、2016年度ころに改定版出版を図る。

4) 素材小委員会(資料05-09, 山田)

- ・昨年収集したデータは、鋼種ごとの数のばらつきが大きいため、3回目の調査としてファブリケートにミルシートの提出を依頼している。7月くらいを目処にデータ整理しデータベース化していく。
- ・素材の繰り返しのデータ収集については、これから検討する。

5) 塑性設計小委員会(資料05-10, 玉井)

- ・運営委員会での指摘などを確認しつつ、塑性設計指針の改定に向け内容検討している。
- ・2013年に改定原稿を作成し、2014年度の査読・出版を想定している。

6) 座屈小委員会(資料05-04, 多田)

- ・「座屈に関する諸問題2013」の原稿に対し委員間で相互査読を行い、4月に小委員会の主査・幹事で取りまとめ作業を開始する。全体で200ページくらいになる見込み。
- ・2012年6～7月の鋼構造運営委員会査読、構造本委員会査読（今年秋ころ）を経て年末に脱稿し、2013年4月刊行を目指す。

- ・鋼構造運営委員会査読担当は、玉井委員，向野委員とする。

4. 2012年度鋼構造運営委員会予算について(資料05-12, 緑川)

- ・2012年度の鋼構造運営委員会予算の各小委員会への配分案を各小委員会主査に諮り，資料のように決定した。

5. 東日本大震災鋼構造被害検討WGについて(資料05-13, 緑川)

- ・資料0-13のWG設置申請が構造本委員会で承認された。本WGは，鋼構造運営委員会主査・幹事および鋼構造関連の被害調査報告の筆頭者をメンバーとしている。
- ・2年後をめどに調査報告書を取りまとめる。必要に応じメンバーの追加も考えていく。

6. 関連書籍に関する質疑回答一覧(資料05-15, 多田)

- ・前回の運営委員会以降4件の質疑が寄せられ，いずれも回答済である。

7. 2012年度大会PD案について(資料05-14)

- ・鋼構造PDは，例年通り3日目の午前となった。
- ・タイトル，内容，パネリストが資料のように決定した。

8. 国総研資料「鋼材の破断伸びに及ぼす試験片形状の影響」について(資料No.05-16, 西山)

- ・前回運営委員会（12月27日）の話題提供「鋼材のF値に対する暫定的な取扱い案」に関連し，国総研と日本鉄鋼連盟での共同研究の「基準強度設定のための鋼材の伸び性能に関する研究」の報告書が紹介された。試験片形状が及ぼす一様伸び，破断伸びへの影響についての調査研究である。なお，本報告書は国総研の下記HPからダウンロード可能。

<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0662pdf/ks0662.pdf>

9. 話題提供「あべのハルカス(地上60F、高さ300m)」について

- ・竹中工務店設計部の平川氏より，大阪に建設中のあべのハルカスの概要が紹介された。構造に絞った内容ではなく，建物コンセプトや関連の活動など幅広くプレゼが行われた。

■次回(2012年度第1回)

日時：6月29日（金）および7月6日（金）を候補日として委員の都合を調査し決定する。

いずれも時間は14:00～17:00

次回重点審議：耐火小委員会の活動（経過報告，紹介）

（次々回重点審議：素材小委員会（データベースの紹介））

■大会(9月12日～14日，名古屋大学)前日運営委員会

- ・9月11日（火）15:15～17:15 名古屋にて鋼構造運営委員会開催，その後懇親会。

以上（記録：寺田）